

会 議 要 旨

- 1 会 議 名 第2回 北九州市成長戦略会議
- 2 会 議 種 別 市政運営上の会合
- 3 議 題 議題1 「産業振興施策の進捗状況（方策1～3）」
議題2 「産業振興施策の進捗状況（方策4～6）」
議題3 「女性の就業とキャリアアップ」に係る意見交換
- 4 開 催 日 時 令和7年11月5日（水）13時30分～15時00分
- 5 開 催 場 所 ホテルクラウンパレス小倉 2階 香梅
（北九州市小倉北区馬借1-2-1）
- 6 出席者氏名 別添「構成員名簿」のとおり
- 7 会 議 概 要 配布の資料に基づき事務局より説明し、意見交換。
- 8 会 議 経 過（発言要旨）

●議題1 「産業振興施策の進捗状況（方策1～3）」

◇構成員

- ・誘致案件に迅速に対応するため、用途地域の変更権限を市で保持してほしい。
- ・物流インフラや交通網の整備、安定的なエネルギー供給の構築に取り組んでほしい。
- ・熊本のTSMCは良い面だけでなく、人件費や住宅費高騰等の問題もある。市内に外国資本を入れる際に、地元も良くなるようにしてほしい。

◆事務局

- ・将来的な展開において用地の確保は大事なので、権限の話も含め今後気をつけてまいりたい。
- ・北九州市は、企業様から、インフラ、エネルギー供給体制、住環境などの投資環境を高く評価されている。この良さは引き続き大事にしていく。
- ・渋滞対策は、例えば、時間差通勤など、企業様と協力しながら取り組んでまいりたい。

◇構成員

- ・ KPI は、達成に向け順調に推移していて非常に力強い。特にスタートアップへの資金流入は成果である。
- ・ 誘致補助金の評価項目や採択基準に、若者や女性の定着率を追加してはどうか。

◆事務局

- ・ 誘致補助金は、現在、市民を雇用した場合の上乗せ支援を行っている。雇用要件に年齢上限を設けることなどについては、今後の検討課題としたい。

◇構成員

- ・ 1 年間で多くの KPI が達成され、顕著な成果が出ていることは、とても素晴らしい。
- ・ AI 活用で産業構造や働き方が大きく変わってきている。報告資料に AI 活用への言及がなかったが、既に取り組みを進めたり、検討したりしていることがあれば教えてほしい。

◆事務局

- ・ 資料は DX で一括りにしているが、生成 AI を使い、新ビジネスへチャレンジしたり、生産性向上を進めたりしている企業もいる。AI 活用を前面に押し出すことも検討したい。

◇構成員

- ・ DX や AI 活用に係る取り組みをアピールできると首都圏や海外の企業進出も進むのではないかと。例えば、企業、市、大学と一緒に AI や DX を学ぶプログラムがあると誘致の決め手になる。

◇構成員

- ・ 生産性向上は、製造業では結果が出ている一方で、サービス業では課題である。
- ・ DX やスタートアップに関する伴走支援は、FAIS（公益財団法人北九州産業学術推進機構）の専門家派遣など、メニューが豊富で助かっている。中小企業の意見を聞きながら、引き続きメニューを開発してもらいたい。

◇構成員

- ・ スタートアップイグジットは時間を要するので、成果を焦らずに、腰を据えて取り組んでほしい。
- ・ M&A は、仲介業者からアプローチが増えたと聞く。質を確かめるために、相談できる人を揃えた方が良い。

◆事務局

- ・イグジットについては、我々も悩んでいる。市内に 100 億円以上の売上の企業があるが、結構な割合で上場していない。上場のメリットを伝えていくことも考えられるので、構成員にもアドバイスをいただきたい。
- ・M&A については、国や県、市の中小企業支援センターでも相談できるが、もう少しクリアな仕組みを考えたい。

◇構成員

- ・雇用者報酬の KPI については、世間的に注目されている初任給や月給の上昇だけでなく、賞与や中高年層の給与上昇も含めて考える必要がある。

●議題2 「産業振興施策の進捗状況（方策4～6）」

◇構成員

- ・多様性（ダイバーシティ）という言葉が使われる一方で、女性活躍が強調されており、違和感がある。「誰もが自分らしく働ける環境」を整えるべきではないか。
- ・地元就職に関する支援が、学生に寄り過ぎた発想のように思う。就職後の踏ん張る力、考えぬく力を育むことに視点を移すべきではないか。
- ・北九州市が、単に「働く」場所ではなく、「生きたい」と思える場所として選ばれるように、暮らしや人の温度が伝わる体験の場を増やすことが大事だと思う。

◆事務局

- ・産業振興未来戦略では、方策4で D&I（多様性、公平性、包括性）の推進を挙げており、女性だけでなく外国人、高齢者に対する取組みも実施している。
- ・「生きたい」街と思ってもらえるように、関係部署と連携しながら取組みを進めていく。

◆事務局

- ・男女関わらず自分らしく働くことができる社会を形成するため、組織横断的に様々な施策を実施しているところである。
- ・女性が働き続けられない、個人では如何ともしがたい構造的な課題もあるため、自分らしく働ける環境づくりを継続して進めてまいりたい。

◆事務局

- ・地元就職支援については、学生を含めた求職者の賃金、やりがい、働く環境、福利厚生などに対するニーズを把握し、経営者支援の取組みを考えてまいりたい。

◇構成員

- ・旅の主目的となるコンテンツの強化が必要である。工場夜景クルーズや産業遺産の見学に美食体験をセットにした高付加価値の夜間ツアーなど、滞在時間や消費額の増加が図れ、訴求力が強化されるものが良い。

◆事務局

- ・食を目的にその地を訪れ、空き時間に観光をする、という層が増えつつあり、その層の取り込みが重要と考えている。
- ・北九州市には、バリエーション豊富な寿司店が 200 ほどあり、「すしの都」というブランディングを「美食のまち」につなげる取組みを進めている。角打ちや工場夜景などのコンテンツ等とも掛け合わせて、宿泊してみたいと思われる情報発信をしていきたい。

◇構成員

- ・市が主導している美食産業創造塾でも事業者が集まって知恵を絞っているので、今後、事業者として努力していきたい。

◆事務局

- ・美食産業創造塾の中でも議論しているが、PRをしっかりとって、それを一次、三次などの産業の成長に紐付けしていくのが重要。北九州イコール美食となるように、また産業の成長にもつながるようにしたい。

◇構成員

- ・着地コンテンツの開発はお金と手間がかかるので、支援や補助金の充実をお願いしたい。
- ・空港の路線誘致には、アウトバウンド需要が必要。学校の国際交流プログラムの強化や企業の海外研修の奨励、姉妹都市との相互交流活性化などを検討してもらいたい。

◇構成員

- ・スタートアップだが、資金調達額が 37.8 億円集まったのは大きな成果。IPO と同様、継続的に支援していくのが肝要。
- ・民間ベンチャーキャピタルへの LP 出資は、自治体としては、おそらく日本初のユニークな取組み。「ベンチャーキャピタルの集積が三大都市圏に比べて低い」ことを課題としているようだが、むしろ九州全域など広域で捉える発想の方がいいと思う。

●議題3 「女性の就業とキャリアアップ」に係る意見交換

◇構成員

- ・若い時に外の世界で経験した方が、戻ってきたい街であるか、そこには人の生き方への寛容さが必要であり、その風土をどう醸成していくか。
- ・事業継承する女性が増えてきている印象があるが、社内で女性活躍を推進していきたくてもそうできない様々な悩みや課題を抱えている。行政に相談ができる窓口があればありがたい。
- ・現在行っている市の女性支援施策の情報を、必要な人にしっかり届けてもらいたい。

◆事務局

- ・女性の事業継承者や役員、管理職が増え、悩みや相談できる場所を求める声も増えている。市では、多様な業種、職種の働く女性が集まって意見交換するカフェのような場を、ある民間企業では、IT系を含めた女性経営者や管理職の方が集まり情報交換する場を、それぞれ作っている。官民で連携して女性が活躍できる街づくりを進めていきたい。

◇構成員

- ・行政の女性に対する支援策は、雇用促進や復職支援が多いが、戦略的に考えるとリーダー層やパワー層へのサポートが重要だ。
- ・市の複数の部署に協力してもらっているが、組織の縦割りで、途中からこれは誰の仕事なんだとなることが多かった気がする。女性活躍、外国人雇用、スタートアップなど、部門を超えた横連携をしてもえれば、さらに成果が出るのではないか。

◆事務局

- ・北九州市の経済は、重厚長大の産業構造なので、マッチョで体育系という印象がある。市役所も含めた経済界で、多様性や寛容性を高めていく必要があるが、具体的な振る舞い方を学ぶ機会が必要と感じる。

◇構成員

- ・企業研修に講師として呼ばれるが、経営トップ層の理解は進み、変えたいと思っている印象。むしろ、現場の意識を変えていく必要がある。

◇構成員

- ・男性の事業継承者の中にも、女性活躍や女性定着率の向上に対する向き合い方がわからないと言っている人がいる。男性経営者にも、相談窓口や情報共有ができる場が必要だ。

◇構成員

- ・わが社は海外展開する中で多様性を肌で感じている。北九州市も女性に限らず、様々な

宗教、文化、人種を超えたところで、地方都市として、西日本の中でのプレゼンスを発揮してほしい。

●その他（全体）

◇構成員

- ・本日は、ソフト面の支援に対する意見が多かった。前回は、ハード面の方が多かったが、ソフトとハードの一体的な施策が必要である。
- ・DX、GX、多様性といった、環境変化の中で、最初の一步をどう踏み出して良いかわからない人が多い。最初の一步を後押しする支援が大事である。
- ・AI を使う日本企業は韓国の数分の1 ぐらいと言われている。企業はAI 導入などで変革していかなければ成長は見込めない。経営層の意識改革で仕事が変わる。